

ち

ば

だ

い

プ

レ

ス



特集

# 社会の現場 から学ぶ!

— 企業との連携協定で実現した授業 —

グッズで知りたい! 千葉大学  
大学祭 Report 2018

46  
vol.  
2018 DECEMBER

# 社会の現場から学ぶ！

企業との連携協定で実現した授業

千葉大学と企業との連携協定によって実現している授業を紹介します。

スポーツ・マネージメント

ミツジェフユナイテッド市原・千葉

## ビジネスとしてのサッカーを学ぶ

この授業は、「競技を支えるビジネス」に関わるマネージメントの観点から、自分の専攻分野とスポーツの関わりについて新たな視点を見つめるきっかけとなることを目指します。ジェフユナイテッド市原・千葉が講師派遣を担い、サッカーに関わる様々な専門の方々とゲストティーチャーとして招き、それぞれの切り口からサッカーのマネージメント、地域との関わりについて授業を展開します。2014年度からは公開授業として一般の方々にも門戸を広げています。

### Student's voice

講義でJリーグの方からマーケティングのお話を聞き、サッカーがビジネスとして成立するためにはどうあるべきかを具体的に学べました。授業を受講して、スポーツにビジネスとして付加価値をつけるには応援してくれる人々の存在が欠かせないことがわかり、ジェフユナイテッド市原・千葉がどれだけ地域を大事にしているのかを学びました。  
(国際教養学部2年 岩澤恵史さん)



▲ 講義にて使用したスライド。Jリーグ、ジェフユナイテッド市原・千葉の概要をはじめ、ホームタウン活動、アカデミーなどの活動事例を紹介



▲ 講義のほか、試合を観戦してレポートにまとめる課題も。サポーターの熱気や裏で支えるスタッフの活躍などスポーツビジネスの場を肌で感じることができる

【ジェフユナイテッド株式会社】ジェフユナイテッド株式会社は、日本のチームとして初めてアジアチャンピオンとなった古河電工サッカー部を母体とし、古河電気工業株式会社、東日本旅客鉄道株式会社が出資し、1991年6月に設立されました。運営するジェフユナイテッド市原・千葉は1993年のJリーグ開幕より加盟するオリジナル10の一つです。ホームタウンは、市原市・千葉市で、千葉県全域を活動エリアとしています。

国際ビジネス論

withイオン

## グローバルに展開しローカルに密着する

イオンは1980年代からアセアンでのビジネスを展開してきており、アセアンや中国に関して深い造詣と豊かな経験知が蓄積されている一方で、国内においても行政等と連携しながら地域に根差した経営などにも取り組んでいます。グローバルとローカルをともに視野に収めながら活動してきたイオンの経験に学びながら、これからの世界におけるグローバルな展開、地方創生への貢献とビジネス、あるいは将来の自己のキャリアなどについて考えていく授業です。

### Student's voice

イオンに対するイメージが変わり、これからの企業があり方について学べた非常に有意義な授業でした。これから社会人として生きていく上で大事な哲学を学べたと思います。ぜひこうした取り組みを続けてください。  
(学生アンケートより)

『企業が社会にできること』をテーマに取り組む植樹活動。



▲ マレーシアでの植樹活動

『イオンのグローバル展開の意義や可能性』をテーマに学ぶ。



▲ イオンモール ジャカルタ ガーデンシティ

『誰一人取り残さない』共に発展していく世界をつくる「モノ」づくり。



▲ トップバリュ フェアトレードチョコレート

【イオン】イオンは、約300社からなる企業集団です。小売事業を中心として総合金融、ディベロッパー、サービス等の事業を世界14カ国で複合的に展開。「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という理念のもと、事業を行っています。グローバルレベルで通用する経営品質と地域(ローカル)に密着した経営の双方を高いレベルで実現する、「グローバル」な企業を目指しています。



地域観光創生論Ⅰ・Ⅱ

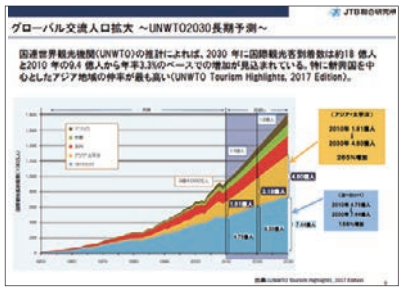
withJTB総合研究所

## 理論と実践の両面から観光を考える

人口減少や少子高齢化、訪日外国人旅行者の急増、テクノロジーの進化等の環境の大きな変化から、「観光」は今、「地方創生」の切り札として改めて注目されています。本授業はJTB総合研究所の協力のもと2チームにわたって展開し、Iでは、観光立国の動向やトレンド、観光マーケティングの基礎から観光地のブランド戦略などを幅広く学びます。IIは、千葉県内地域の観光による活性化プランを考え、プレゼンテーションを行う実践的な内容です。

### Student's voice

将来の志望の一つとして観光関連なども考えているのですが、千葉大学でこうした学びのチャンスがあったことに感動しました。産業としての観光について、実際に裏打ちされたお話を聞いただけではなく、ふだん何気なく過ごしている地元千葉について、地域の潜在的な魅力と観光の可能性という観点から、あらためて考えることができたのも貴重な機会でした。  
(学生アンケートより)



▲ 講義で使用したスライド例。国境を超えて旅行をする人々の数(国際観光客到着者数)は、2030年には18億人へ



▲ 最終プレゼンのテーマ例とプレゼンの様子

【JTB総合研究所】「未来志向かつグローバルな視点で、豊かな暮らしと豊かな地域の実現へ。交流の未来地図、つくります。」JTB総合研究所は、ツーリズムの拡大と質の向上を基本ビジョンに、長年培った知見を活かすとともに、未来志向かつグローバルな視点で、ツーリズムと接点を持つ多種多様なビジネスの課題解決や必要な人材の育成を行い、豊かな暮らしと豊かな地域の実現に寄与してまいります。

**JTB総合研究所**  
JTB Tourism Research & Consulting Co.



Tシャツは西千葉キャンパスのマップをかわいらしいイラストにしたもので、カラーバリエーションも豊富にそろう

他にもまだある  
ちばだいグッズ!

### 生協ライフセンター

3

ペンなどの雑貨や、オリジナルデザインのタオル・Tシャツなどがあります。おみやげや記念品にするほか、試合やイベントに持って行って千葉大学をアピールしてみたい!

販売場所: ②

### 環境健康フィールド 科学センター生産品

他にもまだある  
ちばだいグッズ!

2

はちみつのほかにも、ぶどうや梨などの季節の農産物、ジャムやみそといった手作りの加工品などを販売。柏の葉キャンパス内の直売所「緑楽来」には毎日のように生産品を目当てにいらっしゃる常連の方も。

販売場所: ①



ジャムはりんご、オレンジマーマレードなどの定番のほか、ぶどう、梅杏のような変わりダネも

## はちみつ (柏の葉・西千葉)

販売場所: 柏の葉産 ①④ 西千葉産 ⑤  
※生産数に限りがございますので、売り切れ時はご容赦ください

### 研究の副産物として生まれた、季節を感じるはちみつ

千葉大学では現在2つのキャンパスではちみつを生産しています。柏の葉キャンパスの環境健康フィールド科学センターでは、研究のため様々な野菜や果樹を栽培しています。これらの受粉のためにミツバチを飼育し、採取したはちみつを2010年より販売してきました。

さらに、2018年からは西千葉キャンパス内の屋上においても養蜂を開始しました。ここでは、機能的でスタイリッシュな養蜂箱の実証実験や、ミツバチが持ち帰る花粉やはちみつ中の花粉のDNA分析および緑化への応用といった「都市養蜂」をテーマとした研究活動が行われており、副産物としてはちみつが得られます。

柏の葉産・西千葉産ともに、DNA分析による蜜源植物の同定調査を行い、採取月ごとの蜜源の違いや何種類の植物の蜜から作られているのかを明示しています。季節による地域の草花の変化を、はちみつの色や味わいから感じられることが千葉大学産はちみつの大きな特徴です。



屋上での養蜂の様子。西千葉キャンパスのミツバチは養蜂箱からおおよそ半径3kmの範囲を飛んで蜜を集める。キャンパス内に見られる様々な草花もはちみつの原料に

4月は濃厚で甘みが強く、5月はくせがなくさっぱり...と月ごとに味の傾向が異なり、さらに柏の葉と西千葉での蜜源植物の違いも味の違いとなる。8種の異なる味をぜひお試しください



注目度が高まりつつある大学オリジナルグッズ。ちょっと深く見てみると、海外との連携や研究の成果など、千葉大学のことがもっと見えてきました。

## パナマ・千葉大学 コーヒー

販売場所: ①②③④⑤ ※下記参照



2017年ベストオブパナマ品評会トラディショナル部門で優勝した農園の豆を使用。完熟した果実のような香り、アーモンドチョコレートのような味わい、後味には上質なカカオのような余韻が残る

### パナマと千葉大学の友好を記念して製品化

パナマと千葉大学の交流は、現駐日パナマ大使のリッテル・ノベル・ディアス閣下が、2013年に千葉大学柏の葉キャンパスの環境健康フィールド科学センターを訪問されたことをきっかけに始まりました。その後、2016年1月にはパナマ大学、パナマ工科大学と大学間交流協定を結びます。これはパナマと日本の大学で結ばれた初めての協定です。現在、パナマの大学と千葉大学とは、大学の世界展開力強化事業「ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム(PULI Program)」を中心に、教員および学生の交流が盛んに行われています。

パナマは品評会のオークションで世界最高値を付けるほど、良質なコーヒーを産出しています。パナマのコーヒー農園と深いつながりを持つサザコーヒーの協力のもと、コーヒーの名産地パナマの大地とコーヒーを育む生産者、その支えを志す千葉大学との信頼の証として、パナマ大使館も認めた一品「パナマ・千葉大学コーヒー」が生まれました。



2018年9月にパナマ工科大学で行われたPULIのワークショップ。溶液栽培の培養液作成や環境測定、生産物の品質評価等を日本とパナマの学生が一緒に行った

これまでに発売したグッズの一部。繰り返し利用できるタンブラーや間伐材を使ったペンなどで、購入者もごみ削減に貢献できる



### 環境 ISO 学生委員会 企画グッズ

他にもまだある  
ちばだいグッズ!

1

環境意識啓発活動の一環で、エコに役立つグッズや間伐材を使ったグッズなどを制作、レジ袋削減に伴う「れじぶー基金」によりお求めやすい価格で生協にて販売しています。今冬も体の温まる新商品を開発中。

販売場所: ②

#### 販売場所情報

- ①インフォメーションセンター(西) ②千葉大学生協 ライフセンター(西)・亥鼻購買書籍部(亥)・園芸学部購買部(松) ③千葉大学医学部附属病院内売店(亥)
- ④農産物直売所「緑楽来」(柏) ⑤そごう千葉店 千葉県千葉市中央区新町 1000

※(西): 西千葉キャンパス 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33 (亥): 亥鼻キャンパス 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 (松): 松戸キャンパス 千葉県松戸市松戸 648 (柏): 柏の葉キャンパス 千葉県柏市柏の葉 6-2-1  
※販売場所は2018年12月現在の情報です。予告なく変更になる場合があります。

グッズのご購入に関するお問い合わせはこちら! ▶ 千葉大学広報室 メール: [koho-hp@office.chiba-u.jp](mailto:koho-hp@office.chiba-u.jp) 電話: 043-251-1111(代表)

# 戸定祭



竹と月をテーマにした  
インスタレーション作品



模擬店での  
焼きそば担当の皆さん

松戸里やま応援団  
による野外展示

キャンパスで育てた  
植物の販売

😊 松戸市の広報誌を見て戸定祭を知り、家族と来ました。初めて松戸キャンパスの構内に入りましたが、緑が多く、予想より広くて驚きました。目当ての野菜販売は終わっていましたが、大学の外にはなかなか無いような珍しいものが見られて楽しかったです。培養液を使って水なしても試験管の中で育つという植物キットを買ってみました。  
50代男性



😊 両親と子どもと一緒に遊びに来ました。実家が松戸キャンパスの近くで、父は毎年、野菜や花を買いに訪れているそうです。子どものころから松戸キャンパスの中で遊ぶこともありましたが、親になって見ると改めて緑が多くて良いところだと感じています。今日は屋台を楽しんだあと、フランス庭園を散歩していきます。  
40代女性

# 大学祭 Report 2018

11月1日～4日の期間にかけて、今年も4キャンパスで大学祭が開催され、地域の方や千葉大学にゆかりのある方など、多くの来場者で賑わいました。

今回の大学祭Reportでは ご来場いただいた方から伺った大学祭の感想や、千葉大学の印象などを紹介します。

大人気の  
花苗コーナー



スタッフ総出で  
生産品を販売!



入り口では  
センター祭のシンボル  
「宝船」がお出迎え

😊 センター祭と同時開催の「秋のとれたてフェスタ」千葉大学内のコンサート企画を目当てに来場しました。自分の先輩が千葉大学で教員をしていたという縁もありました。購入した大きなりんご、陽光むつを食するのが楽しみです。地域に根差した大学として、日本を担う若者が育つてほしいと思います。  
60代女性

新鮮フルーツの  
試食会場



# センター祭

😊 自然・環境に興味があり、ホームページを見て、初めて訪れました。大学内お散歩ツアーや薬草セミナーに参加しました。自然との共生の研究や、漢方についての研究を薬草を育てながら展開していて、素晴らしいと思います。  
70代男性

# 亥鼻祭



行方不明者を探す  
スマホアプリを利用した  
大かくれんぼ大会



「看護/ススム」  
男性でも  
妊婦体験ができます



😊 受験を意識して大学を見てみたいと思い、千葉大学OBでもあるお父さんと一緒に来ました。受験相談会や留学カフェでたくさん先輩方のお話を聞くことができ、たいへん参考になりました！大学生になったら医者を目指しながら、留学したり、亥鼻祭で見たように音楽をしたりとやりたいことがいっぱいあります。  
10代女性



ぬいぐるみ病院で  
模擬診察をしよう!



😊 初めての亥鼻祭に家族で来てみました。普段見ることのない学生たちの活動を見られて新鮮です。亥鼻祭は医療系ならではの企画が多く、他の大学祭と違う雰囲気がありますね。子どもたちがアプリを使った「亥鼻祭de大かくれんぼ大会」を楽しんでいました。見つけた人にどうやって声をかければ良いかなど、実際に困っている人を助けることについて学ぶ機会にもなっていました。  
30代男性

# 千葉大祭



工学部で行われた  
藍染体験



留学生による  
本格的な  
エスニックグルメ



恒例の  
千葉大学フォーミュラ  
プロジェクト



😊 5歳の子どもと、友人とその子どもと一緒に来ました。いつも緑日企画や、教育学部の劇などを見ています。今年は工学部祭で開催されていた、科学教室に参加しました。銅の化学反応を使って絵を描くというもので、科学のことはまだわからない子どもたちもとても楽しんでいました。  
30代女性





日本固有の言語でありながら、  
使い手が激減しているアイヌ語。  
数少ないアイヌ語研究者として、  
アイヌ語の継承や復権に取り組む  
中川裕教授に話を伺いました。

中川裕(なかがわ・ひろし)  
千葉大学大学院人文科学研究  
院教授。東京大学大学院人文科  
学研究科修士課程修了。東京大  
学文学部助手を経て、1985年  
に専任講師として千葉大学に着  
任。1999年より現職。2018年  
にはアイヌ語復興およびアイヌ  
文化の普及への長年の功績に  
より、文化庁創立50周年記念表  
彰を受賞。

研究テーマにアイヌ語を選んだ  
きっかけは何だったのでしょうか

もともと「言葉」に興味があって、中学時代  
から言語学を勉強したいと思っていました。  
アイヌ語と出会ったのは大学に入ってから  
です。はじめからアイヌ語に思い入れがあっ  
たわけではないのですが、研究者が少ない分  
野という面白みもありましたし、アイヌの言  
葉や考え方への理解が進むにつれ、徐々にア  
イヌ語の魅力に惹かれるようになりました。

具体的にどのようなことに  
取り組んでいらっしゃいますか

院生メンバーを中心に毎週実施している研

究会が活動拠点です。具体的な例では、北海道  
の平取町立三風谷アイヌ文化博物館と協力し  
て、音声資料の聴き起こしを行っています。こ  
れは文化庁の受託研究事業で、すでに報告書  
にもなっていますが、2020年にオープン  
予定の国立アイヌ民族博物館にもアーカイブ  
として所蔵されることが決まっています。ま  
た、通常の研究会とは別に、慶應大学や北海道  
在住のアイヌの若者も交えた合同研究会も、  
年に数回のペースで実施しています。個人  
の活動としては、アイヌ語指導者の育成事業  
に講師として協力するほか、最近では、明治時  
代の北海道を舞台にした漫画でアニメ化もさ

れている『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修  
も担当しています。千葉大学は、長年アイヌ研  
究で実績をあげていますし、首都圏でアイヌ  
語の専任がいる唯一の大学なので、アイヌ文化  
の発信やアイヌ語継承のお手伝いなど、拠点と  
して担うべき役割は大きいと感じています。

「ゴールデンカムイ」の監修は  
どのようにされているのですか。  
また、学生の反応はいかがですか

マンガは週刊連載なので時間的な猶予が  
あまりなく、アイヌ語に関する相談にお答  
えする程度ですが、アニメはアイヌ語の発音  
や登場人物の動きなども含め、全面監修さ



©野田サトル/集英社

「ゴールデンカムイ」で中川教授が初めて  
単語ではなく文章のセリフを担当したのは  
第9話のこのシーン(単行本2巻に収録)

通常の研究会以外に、年に数回のペース  
で合同研究会を開催。2018年11月3日  
には、千葉大学と北海道の研究メンバーに  
加え、慶應大学の学生も参加して議論や発表  
が行われた



## 失われつつあるアイヌ語の継承・復権に貢献

せていただいています。アイヌ語は発音が独  
特なので、声優さんたちの努力の成果をこ  
だければと思います。「ゴールデンカム  
イ」は授業でも教材として使用しており、学  
生の反応はかなり良いですね。アイヌ語やア  
イヌ文化を伝えるためにこういう形で役立  
つというのは予想外の収穫です(笑)。

最後に千葉大生への  
メッセージをお願いします

学生の皆さんは各自がやりたいことに向  
かって努力をされていると思いますが、何  
をするにしても一定のレベルまでは頑張  
るとい意識を持ってほしいと思います。私  
自身、アイヌ語研究にのめり込んだのは、ア  
イヌ語がわかるようになってからです。あ  
る程度のレベルに達して初めて見えてくる  
ものがあるので、粘り強く取り組んで自分  
だけの何かをつかんでください。

# ちばだい グローバル LETTERS vol.05

手を動かし  
モノを一緒に作り出す

このプログラムで取り組んだ  
課題は「新しいコンテナの活用方  
法について」。コンテナの新しい使  
い方を日本、メキシコの観点から  
それぞれ考えました。メキシコは  
貧困層が多数あり、日本よりも  
階級が顕著です。初めは貧困層に  
向けた新しい家としてコンテナハ  
ウスを使えないかと考えていまし  
たが、フィールドワーク、アイデア  
出し、ネーミング、ロゴ制作、内  
装、外装を経て、最終的に学生が  
利用するシアタールームとしてコ  
ンテナハウスをリノベーションし  
ました。ロゴや内装、誰がどのよ  
うにこの場所を使うかを考え、材  
料を買い出しに行き、自分たちの  
手で壁面に塗装をしました。こう  
してモノと一緒に作り出す時に言  
語はただのツールでしかなく、何  
か問題があって悩んだ時に、多く  
は英語力が原因ではないと知る  
ことができました。何も考えない  
で一緒に悩まず、そして伝えること

今回のレポーター



工学部・デザイン学科 4年  
小黒 興太郎さん

参加した留学プログラム

ポスト・アーバン・リビング・  
イノベーション・プログラム  
(PULI Program)

行き先 ▶ Universidad Panamericana  
(メキシコ)  
期間 ▶ 2018.9.14~9.26

がなければ、海外の学生とは表面  
的な会話しかできないままだった  
と思います。

メキシコの陽気な夜

そもそも参加のきっかけは、  
研究室でメキシコ人も交えてPU  
LIのことを聞く機会があった  
ことでした。メキシコ人の陽気な  
人柄にふれ、彼らの国に興味を  
持ったのです。いざ行くと、ステイ  
先の友人が彼の友だちの家で、行  
うパーティに連れて行ってくれて、  
数多くのメキシコ人と知り合う  
ことができました。彼らは真に底  
から明るく、音楽に気分が乗ると  
軽快なステップを踏んで踊り出  
し、ビールを飲み、タバコをふか  
してお喋りする、日本では味わ  
うことのできない夜がありまし  
た。ほぼ毎日のようにそのような  
日が続くので、日程も後半になる  
とだいぶメキシコの文化に慣れま  
した。

そんな人は海外に行くことでも  
楽しいと思います。むしろ日本を  
よく知らずに海外に行っても、得  
られるものは少ないのではと思  
います。海外の友だちは自国のこと  
を本当に良く知っているの、お  
互いの国の話をするとただの旅  
行にはない見識や充実感を得る  
ことができます。私は海外に何度  
か行って、国内旅行が趣味になり  
ました。



花火とともにコンテナハウス完成  
祝い。メキシコの友人宅で花火製  
作体験をしました



制作したシアタールーム「UKIYO」のロ  
ゴをバックにメキシコ・日本の参加メン  
バーで撮影



完成したコンテナハウス内での講評会

### 留学プログラム紹介

ポスト・アーバン・リビング・  
イノベーション・プログラム  
(PULI Program)

日本の学生が中米(メキシコ、パナマ)の学生  
とともに世界の都市圏が抱える課題を考え、未  
来の快適な都市を創造するプログラム。文系・  
理系の人材が協働し、企業と同じ開発プロセス  
を実施することで、未来のリビング・イノベー  
ションに資する文理混合の実践型人材を育成  
します。  
複数のプロジェクトのうちどれかに参加し、日本  
および中米でのワーク等を通して、グローバル  
な視点で課題解決ができる知性を養います。

詳細はこちら  
<http://design-cu.xsrv.jp/puli/>



## 理学部は稲毛・小仲台から始まった



1956年頃の理学部(左正面は新築した学生ホールでその後ろが元車庫、右後ろの建物が元馬小屋)

今年創立50年を迎えた理学部のルーツは、1949年の「学芸学部」にあります。翌年「文学部」となり、稲毛・小仲台の陸軍高射学校の跡地に入りました。旧軍施設を再利用したため、馬小屋が生物学・地学教室に、車庫が化学教室に、工場が物理学教室にそれぞれ転用されました。こうした環境の中から、戦後の教育研究が発展していったのです。西千葉キャンパスに移転したのは1963年のことでした。(国際教養学部 見城悦治)

## 理学部創立50周年記念式典を開催

EVENT



記念誌の表紙は理学部在籍の学生によるデザイン。理学部50周年特設HPサイトにて記念誌の公開や、今後も卒業生らから提供された写真の紹介を掲載予定 [http://www.s.chiba-u.ac.jp/pr/anniversary\\_50.html](http://www.s.chiba-u.ac.jp/pr/anniversary_50.html)

2018年11月23日、「理学部創立50周年記念式典」が開催されました。午前の部では人気ゲームになぞらえ、在学生が先輩を捕まえて交流するイベント「SENNPAI GO」が催され、多様な業種で活躍する卒業生の話を中心に聴く学生の姿が見られました。午後に行われた物理学科と生物学科の卒業生による講演会は専門外の人々にも楽しめる内容で、活発な質疑応答が行われました。

## 千葉大学地域連携イベント開催

EVENT



第3回目は過去最多のおよそ650人の来場者で賑わいました



研究活動の一環で、パナマ・千葉大学コーヒーのテイステイングアンケートも行いました。徳久学長も参加

千葉大学では2018年度より、3の倍数月の5日を「コーヒーの日」として、地域の方々と大学をつなぐ「千葉大学地域連携イベント」を定期開催しています。12月5日には第3回目を西千葉キャンパスのインフォメーションセンター前にて開催。パナマ千葉大学コーヒーの試飲会や環境健康フィールド科学センターによる生製品の販売のほか、西千葉キャンパス近隣などから11店舗が出店し、一緒にイベントを盛り上げました。次回は2019年3月5日に、西千葉キャンパスゆき会館前にて開催されます。

## おいしいしょうゆは、赤い。ヤマサ醤油株式会社 工藤 桂太郎さん

OBOG MESSAGE



工藤 桂太郎 (くどう・けいたろう) 2011年園芸学部卒業。2013年園芸学研究科修了、同年ヤマサ醤油株式会社入社。醤油づくりの中核を担う醸造課に所属。



▲風向きや時間帯で様々な匂いを感じられる銚子の工場。誰でも見学ツアーに参加できるほか、小学校へ体験教室を提供したりなど、地域とのつながりも深い



「ヤマサの醤油関連製品が全て自分の手元を通ってお客様の元へ届けられていることが、大きなモチベーションとなっている」と語る工藤さん

**伝統ある麹菌と対峙する仕事**  
醸造課では、大豆と小麦から醤油麹をつくる工程において、製造予定を組み、品質をチェックし、実績をデータベースに入れて管理する業務を担当しています。創業時から銚子の地で受け継がれてきた麹菌「ヤマサ菌」をいかに活躍させるかが醤油づくりではとても大切ですので、季節・天候・時間帯などに常に気を配り、最適な状態を維持しています。製造を担う50名のメンバーが働きやすい環境づくりに力を入れています。

**勉強もアルバイトも今に活きる**  
学生時代は園芸学部の天知先生のもとで環境微生物学をテーマに研究をしていました。微生物を研究室で扱うことと業務で扱うこととのスケールの違いは入社して痛感しました。が、学んだことは考え方のベースとして仕事と繋がっています。また、6年間続けたアルバイトで、リーダーとして老若男女多岐に渡るスタッフの動かし方を考えてきた経験も、今の仕事で活かしています。

ヤマサ醤油株式会社 <http://www.yamasa.com>



「社会に存在価値のある企業」を経営理念とし、商品を提供しております。創業1645年のヤマサは、醤油の醸造に携わり3世紀半にもなります。今では、醤油だけではなく、つゆやたれなどの調味料も製造し国内外に販売しております。また、醤油醸造より様々な研究を行い、現在ではその範囲を医薬・化粧品、診断薬まで広げ、食と医の両分野で社会に貢献しています。

## 「パクンマクン 留学のすすめ ~skipwiseで海外へ行こう!~」を開催しました

GLOBAL



約220人が参加。終始笑い声に包まれながらのイベントとなりました

第一部ではパクンマクンが講演し、多くの人が完ペキではなくても伝わる英語を話しているの、とどどん海外へ行こうと自信を持って英語を話してほしいと語りました。第二部では本学学生も交えてパネルディスカッションを行い、学生の留学体験談を中心に、活発な意見交換が行われました。

2018年10月3日、お笑い芸人のパクンマクンを迎え、けやき会館大ホールにて特別講演会を開催しました。第一部ではパクンマクンが講演し、多くの人が完ペキではなくても伝わる英語を話しているの、とどどん海外へ行こうと自信を持って英語を話してほしいと語りました。第二部では本学学生も交えてパネルディスカッションを行い、学生の留学体験談を中心に、活発な意見交換が行われました。

## 学生が手がけたグッズを丸の内で紹介

INFORMATION



各プロジェクトに関わった学生自らが店頭で立ち案内しました

文部科学省「地知」の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の活動成果として、学生たちが実際に地方圏に足を運びながら開発等を手掛けた商品の数々を、12月10日から12日に、東京駅直結の千葉県のアンテナショップ「ちば・CHIBA」にて販売しました。社影響の3Dデータを活用したシルバークセサリーや、千葉発祥の伝統的な図柄をあしらった手帳、地域の農産物を使ったジャムなどが並びました。

## 千葉大学初のクラウドファンディング園芸の知の共有へ

INFORMATION



改築後の松戸キャンパス新図書館のイメージ

園芸学部では、2019年7月完成予定の図書館の改築と合わせて園芸に関する知を社会と共有する基盤づくりを「アカデミック・リンク松戸プロジェクト」として始めます。2018年11月、資金の一部の100万円をクラウドファンディングにて募り、多くの方の応援をいただき目標額を達成しました。園芸の知をオンラインでシェアする「園芸植物ライブラリー」開設と市民公開スペース設置のため、有効に活用させていただきます。

園芸学部では、2019年7月完成予定の図書館の改築と合わせて園芸に関する知を社会と共有する基盤づくりを「アカデミック・リンク松戸プロジェクト」として始めます。2018年11月、資金の一部の100万円をクラウドファンディングにて募り、多くの方の応援をいただき目標額を達成しました。園芸の知をオンラインでシェアする「園芸植物ライブラリー」開設と市民公開スペース設置のため、有効に活用させていただきます。

## 学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金は、ご寄附のもとに、学生の生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などを行っています。次世代を担う若者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



ホームページから寄附の申込みができます  
詳しくは <http://kikin.chiba-u.ac.jp>



02



04



06



08

## I N D E X

### 02 特集 社会の現場から学ぶ! — 企業との連携協定で実現した授業 —

千葉大学と連携する企業による授業を特集。  
社会の動きを実感する学びがそこにはありました

### 04 特集 グッズで知りたい!千葉大学 キャンパス発のオリジナルグッズとともに その背景にある大学の取り組みを紹介

### 06 特集 大学祭 Report 2018 今年も開催された各キャンパスでの大学祭。 来場者の声とともに写真で紹介します

### 08 研究室訪問 失われつつあるアイヌ語の継承・復権に貢献 — 千葉大学 大学院人文科学研究院 ユーラシア言語・文化専修 中川研究室 —

### 09 ちばだいグローバルLETTERS 海外の学生と共同で社会問題解決に取り組むPULIプログラム。 メキシコでの体験記をお届けします

### 10 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

[表紙] 秋田 典子 (あきた・のりこ) 先生

千葉大学 大学院園芸学研究所  
准教授



秋田准教授と園芸学部の学生は、2011年3月に発生した東日本大震災の被災地を「花と緑で元気にする」という趣旨のもと、継続して被災地支援活動に取り組んできました。活動は今年で7年目を迎え、参加した学生の数は延べ1200名を数えるまでに至っています。2018年7月5日には、東日本大震災の被災地復興支援に貢献したとして、復興大臣より感謝状が贈呈されました。表紙の撮影場所は秋田准教授の指導のもとで学生たちが管理している「おひさまガーデン」。松戸駅から松戸キャンパスの中心部へ向かう道のりの途中に位置し、四季折々の花々が訪れる方をあたたかく迎えます。

(撮影:松戸キャンパス おひさまガーデン)

## ちばだいプレス

編集・発行 / 千葉大学 企画総務部渉外企画課広報室  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号  
TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp  
ご意見・ご感想をお寄せください